

取組実績の概要 【2ページ以内】

1 本事業の取組の3つの特色

本事業は「現代日本社会からの発信」をテーマに日欧及び韓国の大学間パートナーシップを強化し、日欧の成熟社会の持続的発展と東アジアの安定に貢献できる次世代のグローバルリーダー人材養成のための東アジア・欧州協働教育プログラムを構築するものである。この目的に沿って、「現代日本社会」が発する社会と文化の問題に対して、欧州と東アジアの複眼的視野を持ち、未来を志向する東アジア・欧州協働教育プログラム<TRANS europe-east asia education program>（以下、TRANSプログラムと略す。）を導入した。TRANSプログラムは学士・修士・博士課程における3教育プログラムから構成されており、各課程のプログラムは、グローバル社会の基盤となる人々の「アイデンティティ」という共通テーマを中心に据えて編成されている点で一貫している。各課程のレベルに合わせて「アイデンティティ」を通じて文化と社会と自己の在り方に関して問いを発し、多岐にわたる専門知識を学修し、課題解決を図るスキルと語学力を修得し、グローバル人材養成、すなわち「地域及び職種を問わずグローバル化社会の中で責任を持って生き抜ける力をもつ人材」に必要な実力を養うカリキュラムを作り上げた。TRANSプログラムへの参加学生は、筑波大学及び協定大学から選抜された学生で、国籍はフランス、ドイツ、スイス、イタリア、スロベニア、クロアチア、ロシア、ウクライナ、中国、韓国に及ぶ。プログラム参画教員は、筑波大学の教員とともに連携大学（ボン大学、ベルリン自由大学、カ・フォスカリ（ヴェネツィア）大学、フランシュコンテ大学、リュブリャナ大学、モスクワ市立教育大学、高麗大）の担当教員である。TRANSプログラム全体を統括する運営委員会を月例で開催し、3教育プログラム全体の連絡調整を図るとともに、各課程プログラムは担当実務者会議を組織し、具体的な共同指導の推進、単位互換認定などを行った。このような人材養成を支えるための本プログラムの特色は、次の3つにまとめることができる。（1）学士・修士・博士課程の多国籍のプログラム学生が一堂に会し、議論・発表を行う合同教育。（2）英語と日本語だけに留まらず、グローバル社会のアイデンティティに関する諸問題に取り組むための多言語・多文化空間の醸成。（3）日欧韓露の大学が組織的に連携して行う国境を越えたグローバル協働教育プラットフォーム形成。

TRANSプログラムは、参加学生にとって、①自らのアイデンティティを国際的なメッセージとして発信し、議論する表現力、②異なる価値観をまとめる先導力、③東アジア・欧州が協働して問題解決に取り組む国際協調力、④専門知識と国際比較の視野を持ち、現場で活躍するための行動力を総合的に身につけ、またその重要性を認識する場として機能した。

2 3課程教育プログラムの実践と成果

TRANSプログラムは、学士・修士・博士課程の3つの教育プログラムから構成されている。各課程は独自の目的とカリキュラムを持つが、いずれも「アイデンティティ」を共通軸としているので、プログラム学生が合同で議論し、成果を発表する場を定期的に設け、交流を図った。これにより、ほぼ日常的に欧州とアジアの学生が交流し、また博士課程の学生は、修士課程の学生に研究方法をアドバイスし、修士課程の学生は学士課程の学生のファシリテータの役割を果たすなど、家族的雰囲気を感じながらグローバルな学びの場を実現することができた。本プログラムは、4つのスペースからなるフロアー（筑波大学共同利用棟A）に拠点を設置し、TRANSプログラム事務局、コーディネータ教員・研究員室、学生討論室、セミナー及び会議室を常に利用できるようにして、3課程のプログラム参加者と関係者（教員・学生・事務）の日常的な連絡調整、個別相談・指導、テレビ会議による共同セミナー等を通じて、風通しのよい一体感のあるプログラムを作った。授業及び研究発表・討論・報告書の共通語は英語で行われたが、英語の他に日常的にフランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語が使われており、プログラム学生は自ずと多言語・多文化空間での視点と発想を身につけた。また学外に向かっては、連携大学との密接な協働を重要視し、連帯と発信を強化すべく世界の各地で定期的に国際シンポジウムを行う「日欧学術ネットワーク」を形成し、グローバル教育を連携大学間で共有するための「欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成フォーラム」を定着させたことは、本プログラムの特徴を生かした成果といえる。

以下に各課程のカリキュラムの実践と成果をまとめる。

学士課程では、世界における日本文化・社会の特色を発信し、交流するスキルを鍛える「日本語・日本文化コミュニケーション養成履修証明プログラム（通称 JLCC）」（40単位の講義・演習からなる履修証明プログラム）を実施した。キーコンセプトは、自らの文化アイデンティティを分析し、異文化の他者と共有を図る「文化コミュニケータ」である。南東欧交流の拠点としてのリュブリャナ大学（スロベニア）、南欧・地中海の交流拠点としてのカ・フォスカリ（ヴェネツィア）大学（イタリア）、西欧の交流拠点としてのボン大学（ドイツ）、ポーランド・東欧の交流拠点としてのモスクワ市立教育大学（ロシア）と連携し、本学の文系学類生と欧州大学の学部生各6名（計12名）を対象とした合同授業・実習・共同研究を行った。実習では、参加大学学生の日欧混成チームによる通年の共同プロジェクトを通じて、学生は日欧双方の価値観を理解し、自らの文化を表現する力を修練した。さらに参加学生は、年1度開催される「筑波英語模擬国連」に必修として参加し、大学院生、留学生とともに議論の国際ルールを学びつつ、文化アイデンティティ等の地球規模課題を討議するトレーニングを受けた。本プログラムの成果として、①共同研究を通じての「他者理解」、②国際的な協働の意義に対する認識の深まり、③課題取組のための「国際比較」の観点の獲得、④連携大学、教員、他のプログラムとの連携強化、⑤インターンシップ活動を通じての協力組織とのネットワーク強化の4点が挙げられよう。大学院修士（博士前期）課程においては、国際協調力の涵養を重点化し、人文社会科学研究科とボン大学（ドイツ）・高麗大（韓国）による「日独韓共同学位（デュアルディグリー）プログラム（通称 TEACH）」（36単位からなる学位プログラム）を実施し、東アジアと欧州の複眼的視野を持ち、異なるアイデンティティを評価できる人材を養成した。日独韓の3国が共同で学位を授与するシステムを整備し、複数大学間の共同学位のあり方、2大学で学ぶ学生の2重学籍、2つの修士論文、3大学共同カ

リキュラム、他大学との単位互換などの問題を解決し、我が国で最初の日独韓の3国間のデュアルディグリーによる専攻横断型の学位プログラムを実現した。今後の国際共同学位プログラムの先駆的モデルとしての意義は多大である。これにより「留学」ではなく、3大学のどこで取得した単位であっても、本プログラムの認定を受けて、そのまま筑波大学の単位として成績がつく世界最先端の教育システムができあがった。学生たちは、ホストとゲストの立場を交互に体験することで自分の立ち位置を相対化し、2国間比較の方法から脱して、3ヶ国の視点から統合的に考察する視点と発想で独創的な論文テーマに取り組むことができるようになった。これにより、今後、従来の発想では解決できなかった各地域の発展と平和維持にも実質的な貢献ができる人材育成へと発展可能である。大学院博士（前期・後期）課程においては、「現代日本」の諸問題に専門知識と国際比較の視野から取り組み、問題解決の提案ができるグローバルな研究者を養成するために「現代日本国際比較研究履修証明プログラム（通称 COMPAS-GJS）」（15単位からなる履修証明プログラム）を実施した。参加学生の専門は文学、歴史学、文化人類学、言語学、教育学、政治学等多岐にわたるが、日常的に教員と学生が課題設定、方法論、研究内容について議論を交わし、また欧州パートナー大学の担当教員・学生とテレビ会議により連絡を欠かさず行なった。プログラム学生は、自らの研究課題を新たな文脈に位置づけ、国際会議の場（日欧学術ネットワーク）で自ら取り組む内容を発信する経験を積むことにより、国際的通用性のある博士論文への取組みが出来るようになった。

3 欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成

本事業は、3プログラムとも学生及び教員の交流に特色がある。学士課程では1ヶ月間の派遣と受入、修士課程では2年間の履修年限の間に本籍校1年、韓国6ヶ月、ドイツ6ヶ月の学修、博士課程では、派遣3ヶ月、受入3ヶ月をプログラムに取り込み、学生交流を図った。同時に協定校の教員・研究者を招聘、派遣することにより、教員・研究者間の交流をも推進した。この交流を確実に推進するために、平成23年度より「欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成フォーラム」及び「日欧学術ネットワーク会議」を定期的で開催した。第1回キックオフフォーラム（於筑波大学）では、連携大学間の協議により、欧州・東アジア協働教育プラットフォーム形成を推進することで合意した。第2回からは、教員だけではなく、プログラム生も参加し、研究発表を通じてフィードバックを得る機会とした。第2回フォーラム（平成24年10月於イタリア・ヴェネツィア、カ・フォスカリ（ヴェネツィア）大学）・第3回フォーラム（平成25年2月於京都外国語大学）では、同プログラムの円滑な遂行のための交流計画の調整及びトランスディシプリン型教育の問題意識の共有と深化を図った。第4回フォーラム（平成25年3月於パリ第7大学）・第5回フォーラム（平成25年9月於カ・フォスカリ（ヴェネツィア）大学）では、日欧の共同学位を旨として、Trans-University Partnership for Development in Human Studies構想を打ち立てた。第6回セミナー（平成26年3月於ニューヨーク国連本部）では、筑波大学・世界ユネスコクラブ連盟共催の「21世紀の地球倫理・女性・持続可能性・ソーシャルメディア」の大会にあわせて、ニューヨーク国連本部会議場にて本グローバル教育の取り組みを世界に発信した。第7回セミナー（平成27年3月於パリ社会科学高等学院）、第8回セミナー（平成27年11月スロベニア、リュブリャナ大学）では、①連携大学との教育プログラムの統一化の構想、②Trans-University Partnership for Development in Human Studies の推進と拡大、③文化コミュニケータートレーニング教育研究を討議した。一連の定期フォーラムにより、本学と欧州連携大学との一対一の関係ではなく、連携大学間で組織的に教員・学生の交流が堅固になり、「欧州・東アジア協働教育プラットフォーム」が稼働し、4年間の活動を通じて3課程プログラムの連携大学間の連絡スキームが確立した。平成28年度からは欧州連携大学が輪番で幹事校となり、このグローバル・パートナーシップを継続・発展させることが合意されている。

4 今後の展望：自走化に向けて

事業終了後は、筑波大学第3期中期目標・計画にしたがって各プログラムの成果を新たな教育プログラムに組み込んでいく。学士課程プログラムはオールラウンド型学士学位プログラム「地球規模課題学位プログラム（学士）（平成29年度開講予定）」の主要な部分を構成し、修士課程・博士課程プログラムは「筑波大学・欧州パートナーシップによる多文化共生リーダー育成プログラム」を新たに立ち上げ、奨学金を確保しつつ、EUの連携大学と ERASMUS PLUS プログラムの共同運営を図っていく予定である。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	2人	0人	9人	9人	17人	23人	23人	23人	23人	23人	74人	78人
実績	2人	0人	9人	11人	17人	17人	23人	25人	28人	22人	79人	75人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。